

福島第一原発廃止措置関連講演会・意見交換会開催

2018.8.30

7年前の東日本大震災で事故を発生した福島第一原子力発電所(1F)の廃炉を契機に、多くの原子力施設の老朽化に伴う廃止措置に関心が集まっています。



沼田 守 氏



大野 昭 氏

本講演会・意見交換会は、このような現況に鑑み、これらの廃止措置を地域企業へのビジネスチャンスとして捉えて、8月30日、ひたちなか市商工会議所会議室にて、いばらき成長産業振興協議会と当協議会共催のもとで開催されました。当日は、近隣の企業や個人など計68名が参集して講演を聴講するとともに、意見交換会ではそれぞれの立場から多様な意見が出されました。

本会は、冒頭事務局から開催趣旨の説明後、最初に(株)キュリオンジャパン プロジェクトディレクター／沼田守氏から「東電福島第一原発の廃止措置の計画と現状」のテーマのもと、1Fの事故状況、同原子炉の廃止措置とそのロードマップ、更には、福島に対する復興支援にも言及されて参加者の関心を集めました。

続く第二の講演では、(株)IHI 主席技監／大野昭氏から廃止措置を一步進めて、「原子力施設の廃止措置と必要な技術について」の演題で、廃止措置に伴う必要なスキルやそれらを有する当地域の企業に求められるニーズと、ビジネスチャンスについて熱く語られました。

2件の講演後、第二部として、前記2名の講演者と参加者の中から約10名が自由討論を行いました。議論では、日米との廃止期間が倍程度異なることでは最終処分地の有無などが関わってくること、産官学連携の可能性、1Fなどの未解明／未確認事項への関わり方、さらにはドローンを用いた廃止措置への参画の可能性など、各発言者が地についた現実的な意見を取り交わしました。

この講演会・意見交換会は今後も回を重ね、テーマを各種視点から厳選し継続開催していく予定です。



盛会だった会場風景

那珂核融合研究所で 企業展示会

2018.10.4

10月4日11時から、(国研)量子科学技術研究開発機構・那珂核融合研究所(那珂研)で、企業展示会が開催されました。那珂研では昨年5月にも実施し好評を博したものの第2弾の位置づけで、県内中小企業14社が出展し各社の代表製品展示やポスターの掲示、得意技術の口頭紹介などで会場を盛り上げました。

当日は、12～13時の昼休み時間を中心に、那珂研の研究者や技術者が来訪され、出展企業担当者の説明に熱心に耳を傾け、時には有益な助言と提言を戴く場面も垣間見られました。那珂研との一層濃密な連携の進展に繋がることが望めます。また希望者に向けて、10時から1時間施設見学会も同時催行され好評でした。

なお、本企業展示会は、那珂研の共催支援を得て、茨城県が主催し当協議会とつくば国



会場



JT60の見学会

際会議場が協力して開催され、開催時間中の那珂研関連の研究者・技術者の来場総数は150名に達し、盛会裡に閉幕しました。

会員(法人)異動のお知らせ

(H30年9月30日現在／敬称略)

◆ 新規入会

(合計会員企業数：225社)

・株式会社 中村自工 大成製作所

市川 成彦 (品質管理部課長)

〒318-0001 高萩市大字赤松字松久保412

電話：0293-20-5050 FAX：0293-20-5051

◆ 担当者変更 (変更後・括弧内は役職)

・株式会社 東和電子 桑原 雅彦 (取締役)

・日本アドバンステクノロジー株式会社

芳賀浩一 (加速器部部长)

・アイ・イー・シー株式会社

青木宗友 (取締役・営業統括本部長)

J-PARC 1MW出力試験運転成功

去る7月3日、J-PARC・MLFに於いて1MW相当となるビーム出力の連続運転に成功しました。MLFでは4月以来ビーム出力を500kWに上げて運転し、稼働率が93%という安定運転を6月30日まで継続。この後、夏季のメンテナンス前に運転出力を増大させる試験運転を実施し時間平均で約935kWを超える連続運転に成功したものです。(J-PARC NEWS—第159号(H30.7.27付)引用)

■■■ イベントのお知らせ ■■■

● 原子力機構・原科研における企業展示会

◆日時：11/7(水)／11:30～15:30

◆既に、出展申込受付は終了しました。